

紅島母

2009年12月号

発行：特定非営利活動法人
テラ・ルネッサンス

発行日：2009年12月1日



「ラオスと日本の友好関係に万歳」

ラオス／プレマ・シャンティ中学校開校式（2009年9月1日）の様子

理事長・鬼丸昌也のメッセージ

設立当初からの会員さんが天に召された。祭壇の写真を見つめるたびに、感謝と御礼を言えなかった後悔がこみ上げる▼ご遺族にご挨拶申し上げますと、驚く一言▼「今度は、私たちが応援しますから」▼涙と感謝があふれる▼Wさんを始め、たくさんの人たちに、「平和への想い」を託されている。絶対に、「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」をあきらめない。託された「想い」を裏切らない。そう固く誓う▼Wさん。本当に、ありがとうございました。あなたの想いを、必ず語り継いでいきます。

目次：

カンボジア事業報告	2
ラオス事業報告	3
ウガンダ事業報告	4
ウガンダ事業報告	5
あくていびてい・れぼーと	6
ふえいす to ふえいす	7
てらるね手帳	8

義肢装具士養成支援 第2期奨学生ヒム・カンニャさん卒業



卒業証書を授与された
ヒム・カンニャさん
(写真中央)

テラ・ルネッサンスでは、2006年10月からカンボジア義肢装具士養成学校で勉強するヒム・カンニャさんに、奨学金を提供してきました。カンボジアでは、地雷被害者やポリオ患者、交通事故により、義足や義手を必要としている人が多く、そのような人たちを助けたいという思いから、義肢装具士を目指したカンニャさん。見事厳しい最終試験に合格し、2009年9月10日卒業しました。今後は、「義肢装具士として働き、まだまだ義足や義手を得られていない人々に、義肢装具を提供し、仕事や勉強などができるようになってほしい」と話してくれました。彼女は、技術や知識、英語の上達はもちろん、以前は本当に恥ずかしがり屋だったのですが、卒業式の日インタビューでは、自信を持って、自分の考えをはきはきと答えてくれ、その成長には目を見張るものがありました。そして最後に、「支援者の皆様、3年間ありがとうございました」と、お礼の言葉を述べていました。

赤ちゃんを救う橋 サムロン・チェイ村 橋建設プロジェクト



「橋が完成し、雨季でも急病患者を運べるようになった」

カンボジア、バットバン州バヴェル郡サムロン・チェイ村では、株式会社穂高住販様のご支援で、6月から7月にかけて、村へつながる道にかかる2本の橋を建設しました。雨季になったカンボジアでは、例年のように道が悪くなってきました。それでも今年は2本の橋が完成したことで、牛車やトラクターで村までアクセスできるようになりました。牛車に乗って村へ向かう途中、一緒に乗ってきたお母さんと赤ちゃん。何でも赤ちゃんが病気になり、村からバヴェル郡の病院まで行ってきた帰りだとのこと。今までは雨季になると、こうした急病患者を運ぶことは非常に困難でしたが、橋が完成し、病院へもアクセスできるようになりました。

プレア・プット村 小学校修理プロジェクト

今年6月に開催された第3回『頑張らない』チャリティ・バドミントン大会での収益金で、バットバン州カムリエン郡プレア・プット村の小学校の屋根と壁の一部の修理を実施しました。内戦中に病院として建てられた校舎は、損傷が激しく、屋根や壁には穴が開いており、雨が降れば勉強はできなくなりました。修理は8月末から始められ、最貧困層の村人を雇い、彼らの収入にもなるように実施しました。これにより小学校での授業は、雨に左右されることがなくなり、10月から新しくなった校舎で子どもたちが楽しく勉強している姿が見られました。



修理の終わった
小学校で勉強する
子どもたち



屋根と壁の一部の修理が終わった小学校

プレマ・シャンティ中学校開校式

昨年12月から進めてきた不発弾撤去と撤去した後の土地に中学校を建設するプロジェクト。9月1日に、完成したシエンクアン県ノンヘット郡カンパニオン村中学校の開校式を行いました。日本からは不発弾撤去と中学校建設費用をご支援くださったプレマ株式会社の社員の皆様が、浴衣を着てご参加くださり、村人たちが闘牛や伝統舞踊で歓迎するという盛大な式になりました。

カンパニオン村は周辺14村の中心に位置している村で、小学校がありました。しかし、小学校を卒業しても子どもたちは、中学校がないために、小学校の教室を使って午前、午後に分かれて勉強していました。今回中学校が完成したことで200名以上の生徒が、この校舎で勉強できるようになります。今まで中学生が教室を使うために限られていた小学生の授業も、十分にできるようになります。また、京都文紙事務用品組合の皆様にご協力いただき、開校式にあわせて、文房具を寄贈いたしました。

盛大な開校式の前座となったのは、各村を代表した牛たちの闘牛。でも、牛たちも平和的に解決しようと、なかなか戦おうとしませんでした。また、式中に『ラオスと日本の友好関係に万歳！』と書かれた横断幕のテープカットが行われ、風船とともに空高く飛んでいきました。「この横断幕は日本まで飛んで行くんだ」と話すラオスの人々。式後は、華やかな衣装を着てのモン族の伝統舞踊が踊られ、楽しませてくれました。

中学校の名前には、サンスクリット語で、「プレマ」は聖なる愛を、「シャンティ」は内的な平和を意味し、愛と平和という意味を込めて、プレマ株式会社様に、プレマ・シャンティ中学校とつけていただきました。



中学校の看板



左：不発弾撤去後の安全が確認された土地に完成した中学校

中：プレマ株式会社中川社長から校長先生への譲渡式の様子

右：地元の中学生によって踊られたモン族の伝統舞踊

不発弾撤去に必要な金属探知機が足りません。

ラオスのシエンクアン県は、『第2の地雷』と言われるクラスター爆弾の不発弾の汚染がひどい場所です。中学校の開校式の後、中学校から帰る道のすぐ脇で、不発弾撤去をしていた不発弾撤去団体MAGの撤去現場を見せてもらいましたが、道路から数メートルの斜面にクラスター爆弾の子爆弾が、まだたくさん埋まっているのを見ました。MAGによれば、不発弾撤去に必要な金属探知機が不足しているために、作業はとても遅くなっているとのことでした。

テラ・ルネッサンスでは、金属探知機をMAGへ提供したいと考えています。ご寄付くださる方は、テラ・ルネッサンス事務局までご連絡ください。



1台約60万円する
高性能金属探知機

連絡先：TEL/FAX：075-645-1802 E-mail：contact@terra-r.jp

元子ども兵たちが社会復帰 (自立)を果たしました！



卒業式で終了証書を受け取った
元子ども兵たち

当会の元子ども兵社会復帰センターで支援を受けていた1期生と2期生が、今年の5月に社会復帰のための訓練を終えて、村々で生活を始めています。支援開始当初、ほとんど自分で収入を得ることができず、援助機関からの食糧援助に依存しなければ生きていくことができなかった多くの元子ども兵たちが、今では現地住民と変わらないほどの収入を自分の力で得ることができるようになりました。

今回、卒業した37名の平均月収は、支援開始前は約210円だったのが、現在では約6500円にまで上がりました。(※現地公務員の給与が約7500円)そして、ここ半年間その収入は安定し、今では多くが自分の食費や医療費だけでなく、家族や親戚などの生活も支えることができるようになっています。

また、生活のゆとりとともに過去のトラウマ(心の傷)も軽減され、以前は元反政府軍兵士だという理由で半数以上が住民からいじめや差別を受けていましたが、今では近隣住民との関係も改善され、周囲に相談できる友人ができ、地域の中での相互扶助活動にも参加しています。

今に至るまで、彼ら彼女らは、それぞれ難しい問題や悩みもたくさん抱え、さまざまな壁にもぶつかりましたが、今回は卒業生の一人、アーチャー(仮名)の支援開始からの歩みを通して、元子ども兵の社会復帰を振り返ってみたいと思います。

元少女兵、アーチャー、の3年間の歩み

アーチャー(仮名)は9年間、反政府軍の兵士として徴兵され、その間に大人兵士との強制結婚によって子どもを産み、帰還しました。初めて彼女と出会った時、彼女は過去の体験を思い出しては自分では何もできないとふさぎ込み、収入も全くない状況でした。また、彼女は両親が反政府軍に殺されており、亡くした両親のことを思っては涙を浮かべることが何度もありました。

そんな彼女にとって施設での職業訓練は、はじめは難しいと言っていたこともありましたが、徐々に技術も身につけ、楽しんで授業に参加するようになりました。特に、手工芸の授業に興味を持ち、将来も手工芸や洋裁などの技術を活かして自分の生活を再建していきたいという想いを強く持つようになりました。そして、心の状態も少しずつ安定し、しばしば将来の夢を私たちにも語ってくれるようになりました。

しかし、彼女にとってもう一つ、つらい事がありました。それはエイズに感染しているという事実を知ったことです。それからは、エイズの発症を抑えるための治療を続けながら、施設での訓練に励んできました。そして、時間はかかりましたが、少しずつ立ち直り、支援開始から2年が経った頃には、こんなことを私たちに語ってくれました。「私はエイズに感染していることを知った。とてもショックだった。でも、今はその事実を受けとめて、自分の命ある限り、精一杯生きて子どもたちを幸せにしたい」。そして、彼女は体調管理をしっかりとしながら、自分が身につけた洋裁と手工芸の技術を使って、今では毎月6000円の収入が得られるようになりました。また、近隣住民との関係も改善し今は2人の子どもとともに元気に過ごしています。

彼女は、誘拐、苛酷な兵役、両親の死、そしてエイズ感染など、本当にたくさんの絶望と苦しみを経験してきました。しかし、今、彼女が製作しているペーパービーズは本当に美しく、素晴らしいもので、それを作っている時の彼女の表情は希望に満ち溢れています。



手工芸品(ペーパービーズ)を
手に娘とともに

子どもを育てることが私の夢 ～アーチャーから日本の皆様へ～

会ったこともない私のことを遠い場所から支援してくれた日本の皆さんに心から感謝しています。反政府軍の兵役を逃れてからも、ずっと何もできずに落ち込んでいた私に生きる希望を与えてくれたのは日本の皆さんです。そして、支援期間中に何度もつらい事がありましたが、それでも、私を励まして、いま自分がいるところまで導いてくれたのも、スタッフの皆さんのおかげです。

私は今も自分の病気と戦いながら生きていますが、自分を投げ出さず、いま自分が生きていることに感謝しながら、とにかく、今を精一杯生きていきたいと思っています。そして、子どもたちを精一杯育てていくことが今の私の夢です。

今まで本当にありがとうございました。また、機会があればひ、私の作ったペーパービーズを日本の皆さんにも見てもらいたいです。

アーチャーと彼女の2人の子ども
(自宅前にて)



第5期生の支援を開始しました ～社会復帰への第一歩～

第1期生、2期生の卒業とともに、新しい元子ども兵たちの受け入れを開始しました。今回受け入れた元子ども兵たちは、これまで援助機関の支援が届いていなかった地方の元子ども兵を中心に、行政機関と連携し、その選定に当たりました。また、昨今、ウガンダ北部では治安が落ち着き大部分の国内避難民が村々へ帰還しているのですが、一方、反政府軍（神の抵抗軍）には今も多くの子どもの兵が拘束されており、隣国のコンゴ東部や中央アフリカに移動し、そこで新たな子どもの誘拐や村々の襲撃を繰り返しています。昨年のクリスマス頃から、数週間で865人の住民が虐殺され、160名の子どもたちが誘拐されました。

このような状況で、今年に入っても戦闘の際にコンゴなどで保護された子ども兵たちがウガンダ北部にも帰還しているのですが、今回、受け入れた受益者の中には14年間拘束されて帰還したばかりの元子ども兵もいます。そして、今、彼ら彼女らは、洋裁、手工芸、木工大工などの職業訓練とともに、基礎教育や平和教育など社会復帰していくための訓練に励んでいます。

今後、5期生全員が経済的に自立し、地域の人々と平和に暮らしていくためには、越えていかなければいけない壁がたくさんあるかもしれませんが、私たちスタッフも精一杯、その手助けをしていければと考えています。また、日本の支援者の皆様にも、彼ら彼女らのこれからの歩みをともに見守っていただければ幸いです。



木工大工を専攻し勉強に励む
5期生の元子ども兵たち

あくていびてい・れぽ〜と

★進む企業との「平和へのパートナーシップ」。多様な方法で社会貢献を実施。

使用済みインク回収を通じて、企業との連携が進む／株式会社ウエダ本社様



事務機器卸の株式会社ウエダ本社様（本社：京都府京都市 代表取締役：岡村充泰様）と、使用済みインクカートリッジ（以下、インク）

の回収について、連携することになりました。ウエダ本社様が営業先に、社員が気軽に参加できる社会貢献の一環として、インク回収を呼びかけ、現在、ワコール様など京都市内の大手企業にて回収が始まっています。回収されたインクは、株式会社エネックス様（本社：福井県福井市）に買い取られ、再生品に。そのインクの買取額が、テラ・ルネッサンスの活動費に充てられるのです。テラ・ルネッサンスが本拠地とする京都市内で、ウエダ本社様を介して、企業との連携が一段と進んでいます。今後の広がり期待が持てる活動です。（おにまる）

ダイレクトメールで支援報告。多様な方法で本会を紹介／株式会社沖縄教育出版様



健康食品・化粧品通信販売の株式会社沖縄教育出版様（本社：沖縄県那覇市 代表取締役：川畑保夫様）が、お客様へのダイレクトメールに

て、本会活動をご紹介します。「私たちの理念である「お役立ちの実践」が、遠くウガンダの地で形になっています。」と、お客様にご報告くださっています。2007年に川畑様がウガンダを訪問されて以来、ご寄付や活動報告会の開催を通じて、本会への支援を続けてくださっています。また、障がい者雇用を積極的に進めるなど、優れた会社として他社から尊敬を集める企業として、各地で講演活動をされていますが、その時にも、本会をご紹介くださり、会員拡大に貢献してくださっています。沖縄教育出版様との「平和へのパートナーシップ」はより強くなっています。（おにまる）

松緑神道大和山様のバザーに参加しました！

2009年9月12日(土)、9月13日(日) 宗教法人松緑神道大和山 第35回チャリティーバザー 五所川原会場に参加しました。松緑神道大和山様には当会のウガンダにおける元子ども兵社会復帰支援事業に、事業開始時からご支援いただいています。

今年は私が初めてチャリティーバザーに参加したのですが、バザーは驚きの連続でした。まずは品物の量と質とその値段。全国各地の農産物、海産物、家庭内の遊休品などが破格の値段で売られ数時間のうちに売り切れるものもありました。

しかし、驚きはそれだけではありません。なんとその収益金をテラ・ルネッサンスを始め、福祉団体などに寄付してくださっているのです。販売員の方々の一人ひとりの世界平和のためという願いが来場された方へ確実に伝わり、ただ物を買うだけでなく、それを通して平和への思いを馳せる、そんな心のこもったバザーに参加したのは生まれて初めてで、平和の輪の広がりを肌で感じた、忘れられない時間となりました。（くりた）



第1回 Café de テラ・ボラ開催！



こんにちは、インターンシップ生の青木理紗です。2007年8月からインターンシップを開始し、気づけば3年目。今まで結晶母の原稿は何度か書いたことがあるのですが、こうして自己紹介の枠を設けていただいたのは初めてです。現在はカンボジア国内事業（スタディツアー引率等）や人財育成事業（インターン育成やボランティアコーディネート）を担当しています。

そして、人財育成事業に関連して、以前から私がずっとやりたかったボランティア向けのイベントを企画しました。その名は

『Café de テラ・ボラ』。今まで使用済みインクカートリッジ・書き損じハガキの仕分け作業が主なボランティア活動でした。それ以外にボランティアが集う場、勉強する場を作ることによって、継続的にがっつりテラ・ルネッサンスに関わってもらいたい、「一人ひとりに未来を創る力がある」ことを認識して実践してほしい…そんな願いがあります。

第1回 Café de テラ・ボラは11月7日(土)に開催し、ボランティアさん5名に参加いただきました。テラ・ルネ〇×クイズ、「ボランティアとは何か」の議論、そして次回の運営に向けてのミーティングを行いました。活発に意見交換がされ、私自身非常に充実した時間を過ごすことができました。ボランティアさんからも「いい刺激になった」、「これからもぜひ参加したい、続けていきたい」と声をいただきました。

次回は、12月12日(土)開催予定です。Café de テラ・ボラに参加したい、あるいはテラ・ルネッサンスのボランティア活動に興味がある方は、ぜひ一度ご連絡ください。また、インターンシップ生も随時募集中です！ インターンシップの詳細はHPに掲載しておりますので、ごらんくださいませ。（あおき）



URL : http://www.terra-r.jp/blog/0200topics/post_65.html

お問い合わせ : contact@terra-r.jp

新インターンのご紹介

奈良県出身、立命館大学3回生の丸山紗穂です。10月から独自インターン生として加わり、フェアトレード事業担当をしています。販売促進・広報にも関わり、情報発信・つながりを大切に、活動していきたいと思っています。



丸山紗穂

広島県出身で、現在立命館大学で国際関係学を勉強しています。10月よりインターンとしてパネル事業を担当しています。テラ・ルネッサンスで自分にできる国際協力を最大の力で取り組み、自己成長に繋がっていききたいです！



木原 舞

大学4回生の秋。学生生活も残りがカウントダウンの時期に、インターンとしてこんなに多くを学ばせていただき、多くのすばらしい出会いに恵まれるとは幸せ者です。早くテラ・ルネの力になれるようがんばりたいです。



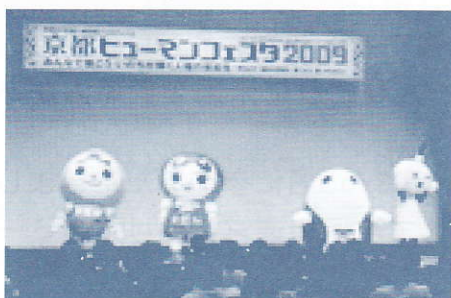
吉田 泉

てらるね手帳

2009年10月17日 人権啓発フェスティバル
京都ヒューマンフェスタ2009

10月17日(土)、京都ヒューマンフェスタに初めて参加しました。フェスタでの内容はブース出展！ コーヒー、書籍、ウガンダグッズなどの販売も行い、テラ・ルネッサンスの5カ国における活動内容もぎっしり詰まって充実したブース出展になりました。

このイベントは、「一人ひとりの尊厳と人権が尊重される社会」の実現をめざして、人権問題について自主的・主体的に考え、多様な交流を図ることを目的にしたものです。



京都府内のNPO団体も多数参加し、それぞれのブースにおいて活動展示を行っていました。テラ・ルネッサンスも京都のNPO団体としての存在感をアピールできたのではないかと、思います！

ブースを訪れた方の中には、以前から活動に興味を持っておられた方もいました。何より、資料の充実したブースとなったため、テラ・ルネッサンスを知らない方たちにも詳しく知ってもらえる良い機会になったと思います。(まるやま)

冬季募金のお願い

**一人でも多くの笑顔のために、
日本のあなたの力が必要です。**

テラ・ルネッサンスはウガンダで元子ども兵社会復帰支援を行っています。兵士として戦わされてきた元子ども兵が、村に帰ってきてからの生活で自立して生きていくための支援です。みなさまからの募金はウガンダの元子ども兵社会復帰センターで、多くの元子ども兵の命のために使われ、輝く笑顔につながります。ご支援いただける方は、同封の振込用紙をご利用ください。(きはら)

**あなたの1000円で変わる
ウガンダの生活**

▼元子ども兵社会復帰センターで20食分の給食を届けることが可能▼元子ども兵が職業訓練に参加する学費3日分▼元子ども兵家族の食費1週間分を賄うことが可能



書き損じハガキ・使用済みインクカートリッジ 年末年始回収拡大キャンペーン

お家に眠っている書き損じハガキや買いすぎて余ってしまった年賀状、使い終わったインクカートリッジなどがありましたら、ぜひテラ・ルネッサンス事務局へお送り下さい。集まったハガキは、集計作業の後、郵便局と金券ショップを介して換金されます。また、インクはエネックス株式会社様に買い取っていただき、リサイクルインクへ生まれ変わります。これらの収益はすべて当会のウガンダ事業・カンボジア事業に充てられます。この機会にぜひともキャンペーンのことをご友人やお知り合いにお知らせ下さい！(よしだ)

＜編集・発行＞

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町5-23-105

Tel/Fax : 075-645-1802

E-mail : contact@terra-r.jp

<http://www.terra-r.jp/> (公式)

<http://www.terra-ippo.jp/> (支援)

Terra
Renaissance